

ホタテガイ養殖管理情報

稚貝の分散作業は23℃を下回ったのち「フチがまわっている」ことを確かめてから作業しましょう

1 海況

9月25日時点の陸奥湾の中層（10～15m層）の日平均水温は23℃を下回る地点が出始めました（図1）。詳しくは、陸奥湾海況情報や海ナビ@あおもり（下記URL、QRコード）をご覧ください。

海況自動観測ブイの15m層の半旬別平均水温の推移は図2のとおりで、平年値であれば平館ブイで17日間、青森ブイと東湾ブイでは全く見られない23℃以上の高水温期間が、今年は全海況自動観測ブイで2か月近く継続している状況です。

2 稚貝分散作業時の注意点

- 現在の水温は、**稚貝が成長を再開する23℃より低い状況**になりつつあります。
- 今年は高水温期間がかなり長く、**稚貝は疲弊した状態**であると考えられます。**23℃を下回ってもすぐには作業を行わず、稚貝を養生**させてください。
- さらに、**貝の体力回復の目安となる「フチがまわっている」ことを確かめてから作業**しましょう。
- 1段当りの**収容枚数が多いと成長悪化やへい死につながる**ので、養殖方法に応じた**適正な収容枚数（1段当り10～20枚）**を心がけて作業してください。
- **稚貝は乾燥にも弱い**ので、手早く作業を行いましょう。
- 流れによるぶつかり合いで、外套膜（ヒモ）が傷ついてへい死しないように、**ネットにはオモリをつけましょう**。また、流れが速い場合は、作業を控えましょう。
- 作業終了後は波浪によるぶつかり合いを防ぐために、**施設を浮かせずぎない**ようにしましょう。

3 新貝の作業の注意点

今夏の水温は、8月上旬までは概ね「かなり高め」から「はなはだ高め」、8月中旬以降は概ね「やや高め」から「かなり高め」で推移しました（陸奥湾海況情報No. 1504～1514）。**水温が高い上に、高水温期間も長くなっているため、ホタテガイは例年以上に疲弊**している状態です。

水温が低下してもすぐには回復していないと考えられ、そのような状況で**新貝の作業（玉付け・籠替え・掃除）を行うと、へい死率や異常貝率が高まる可能性**があります。そのため、水温が20℃になってもすぐには作業を行わず、**回復させる期間を設けてから作業を開始**してください。

新貝作業の詳細は今後発行予定のホタテガイ養殖管理情報第8号を参考にしてください。

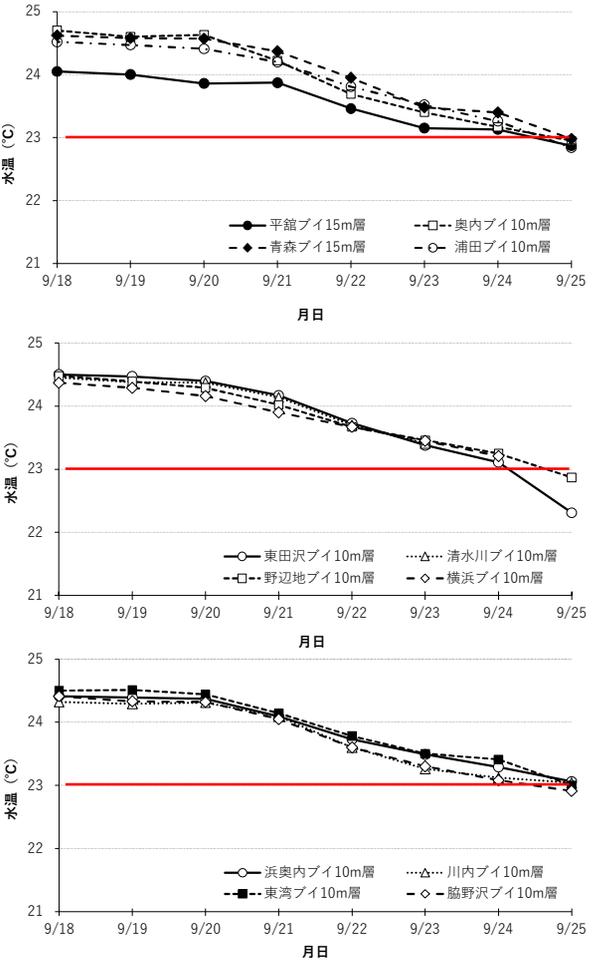


図1 海況自動観測ブイ（15m層）と水温観測ブイ（10m層）での日平均水温の変化

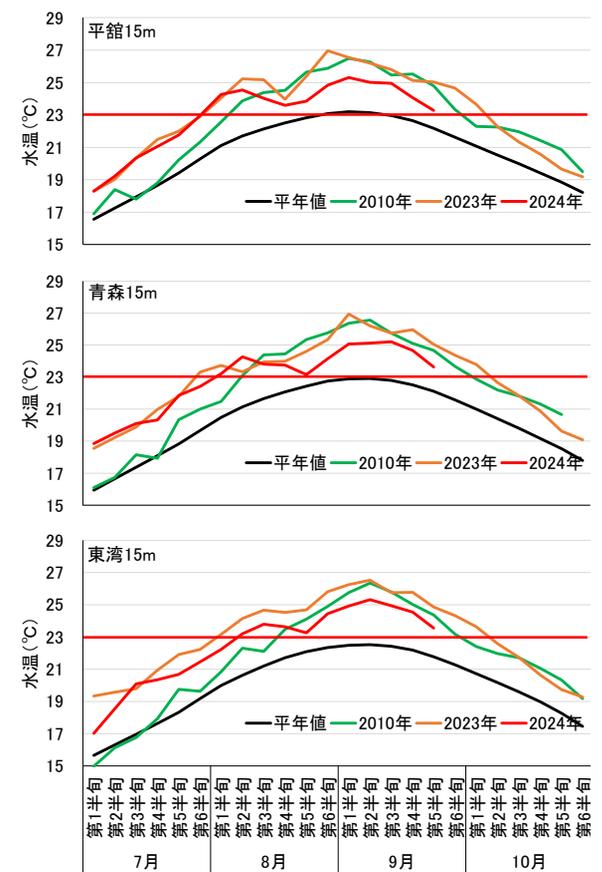


図2 海況自動観測ブイでの15m層の半旬別平均水温の推移 ※暫定値を含む

発行元：地方独立行政法人
青森県産業技術センター 水産総合研究所
住所：青森県東津軽郡平内町大字茂浦字月泊10
TEL：017-755-2155 FAX：017-755-2156

水産総合研究所ホームページURL：https://www.aomori-itc.or.jp/soshiki/sui_sougou/

ホタテガイ採苗速報 携帯電話用QRコード (1)

海ナビ@あおもり 全モバイル端末共用QRコード (2)

ほたてナビ スマートフォン用QRコード (3)

